

IEA石油市場レポートの概要（2016年12月13日公表）
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. OPECは、2017年1月から120万バレル/日の生産削減に合意するとともに、OPEC非加盟国からの55.8万バレル/日の生産削減も確保した。OPECが生産削減に合意する一方、11月のOPECの原油生産は3,420万バレル/日と、10月より30万バレル/日多く、過去最高となった。加盟国の生産量は、昨年よりも140万バレル/日多くなった。
2. ロシアを中心とするOPEC非加盟国はOPECの支援の下で追加削減に合意した。これにより、OPEC非加盟の2017年の生産増は、（我々のこれまでの予想は50万バレル/日だったが）20万バレル/日強に抑制されることが予想される。
3. 11月の世界の原油供給は、OPEC加盟国の生産増が非加盟国の減産を補ったため、記録的な9,820万バレル/日に達した。
4. 2016年の世界の石油需要の伸びは、（我々のこれまでの予想を12万バレル/日上回る）140万バレル/日となることを見込まれる。米国の第3四半期の力強い需要と中国における方法変更が要因である。2017年の需要増は、現時点で130万バレル/日と見込まれる。
5. 10月のOECD加盟国の商業在庫は、3ヵ月連続で減少した。7月に史上最高の水準に達した後、7,500万バレルの減少となったが、依然として過去5年間の平均を3億バレル上回る水準となっている。同じ時期に製品在庫は原油よりも2倍の速度で減少している。暫定的なデータでは、11月のOECD加盟国の在庫は更に減少している。
6. 2017年第1四半期の精製量は、（2016年第4四半期のわずか35万バレル/日の増加の後）前年比でたった31万バレル/日の増加となることが予想される。OPEC加盟国/非加盟国の協調行動の発表に続く原油価格の反発は、精製マージンをさらに圧迫し、製品在庫の取り崩しを促し、市場を均衡させる方向に向かうだろう。
7. 原油の指標価格は、OPEC加盟国と非加盟国の減産合意によって、11月の下落分を回復し、バレル当たり10ドル上昇した。軽質油は重質油とより低迷し、これは来年はじめて続くだろう。燃油やナフサはアジアの高い需要に支えられて高値となっている。